

米沢調理師専門学校・学校自己（内部）評価の公表

平成28年度 米沢調理師専門学校「自己（内部）評価」の全体分析並びに改善方策等

◎ 実 施 方 法

- ①評価の対象年度は平成28年度学校運営とし、評価活動実施期間は、平成29年2月に実施し3月中旬に提出をいただきました。
- ②本年度の「自己（内部）評価」は、常勤の教諭5名、事務職員2名並びに非常勤講師6名の合計13名の教職員にお願いし評価活動を実施しました。
- ③評価内容は、学校運営上の必須の評価視点として10の内容を設定し、各内容に3～8の評価項目を配置し、各項目について4段階（適切—4、ほぼ適切—3、やや不適切—2、不適切—1）の評価基準を設けて実施しました。

1. 全 体 分 析

- (1) 本学の理念である、調理の学びを通じた人づくりを目指し、人間としての在り方や生き方を学ぶ姿勢を醸成できる指導体制や教育内容の充実が図られてきている。
- (2) 学生が自ら目指す「本学の学生像」の指針を入学当初に理解させることにより、具体的な努力目標を積極的に設定した学生生活が浸透してきている。
- (3) 教職員自らの前向きな能力開発や資質向上意欲、全職員による年間を通じた面接指導による学生理解が影響し、学生の積極的な学びの意欲を喚起し高い学修成果目標を達成している。
- (4) 学校運営・経営に対する教職員の高い理想による提言や厳しい指摘も、本学の教育内容や環境改善の取組を前向きに推進させており、文部科学省「職業実践専門課程」の指針を踏まえた質の向上に自主的に取り組んでいる。
- (5) 財務の安定を図るため、魅力ある校風を構築させるとともに、学生募集活動を社会人・高校生の対象枠から中学生を対象とした「出前講座」に発展させ、体験を通じた興味・動機付けによる将来の自分探しの手がかりを創造させる。

2. 具 体 的 取 り 組 み

- (1) 年度当初のオリエンテーションにおいて、「本学が目指す学生像」の指針と行動を説明し理解を促し、学生が自ら主体的に取り組む環境づくりを全職員で実践する。
- (2) 年間を通じた各種行事の目的や行事内容を更に精査し、学びの質向上につながる行事活動並びに学生の興味関心を助長する行事としていく。
- (3) 校務分掌組織の細分化に伴う業務内容の明確化を図り、全職員が責任を持って企画・運営できる組織体制を創り上げて行く。

平成28年度 学校法人音羽学園 米沢調理師専門学校

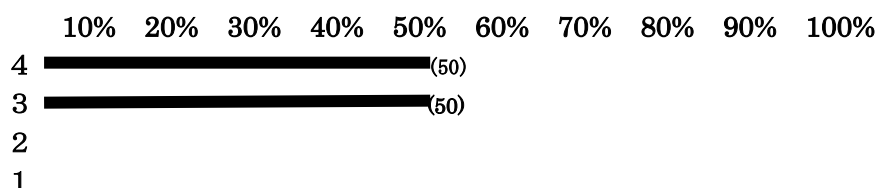
自己（内部）評価結果集約並びに分析

◎評価者：学校常勤職員7名、非常勤職員6名の計13名で評価

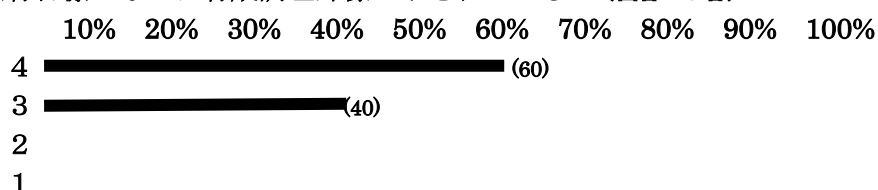
◎評価基準【 適切—4 ほぼ適切—3 やや不適切—2 不適切—1 】

(1) 教育理念・目標に関する評価項目

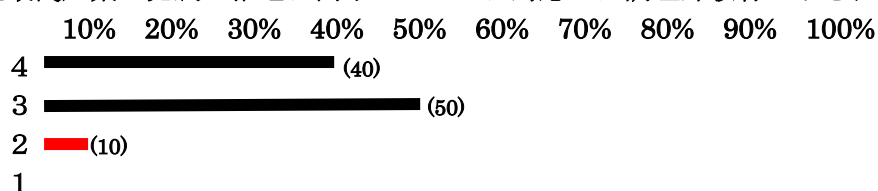
①学校理念のなかに建学の崇高な精神が示されているか（回答10名）



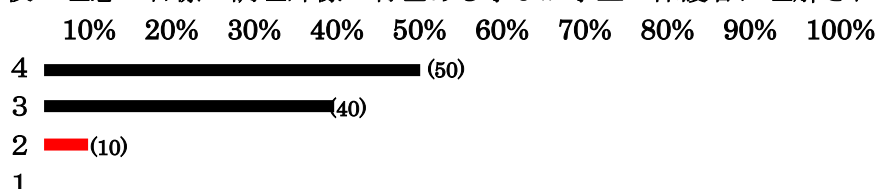
②教育目標のなかに育成調理師像が示されているか（回答10名）



③地域食産業の発展・推進に向けたニーズに対応した調理師教育が示されているか（回答10名）



④学校の理念・目標・調理師像・特色ある学びが学生・保護者に理解されているか（回答10名）



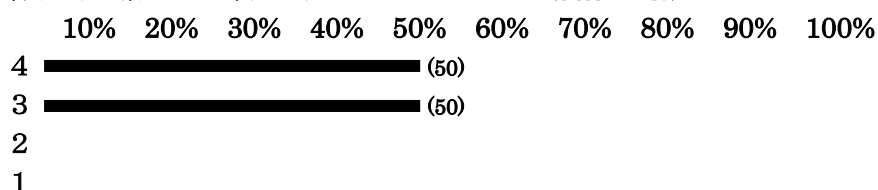
☆分析【課題と改善策】

ア) 全体的に適切・ほぼ適切であるという評価を得ており、「本学の目指す育成調理師像」並びに「本学が目指す学生像」の大綱を2015年から示し指導してきたことが、個々の学生の目指す具体的な努力目標として浸透してきている。

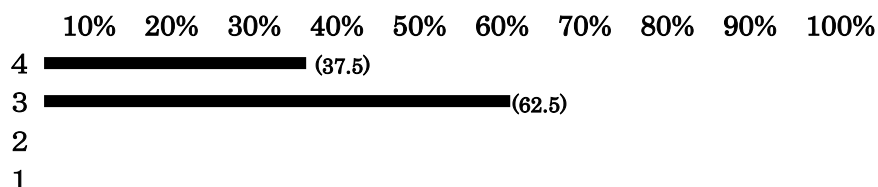
イ) やや不適切とある地域食産業の動向分析や保護者への学校便り（担任作成）を更に工夫し、アピールする必要がある。

(2) 学校運営に関する評価項目

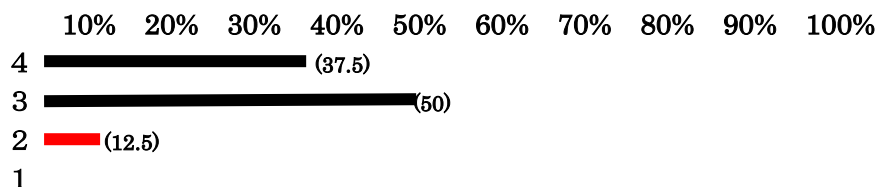
①教育目的に沿った運営方針が示されているか（回答 8名）



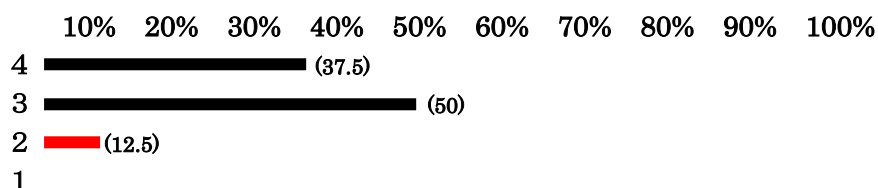
②運営方針に沿った事業計画が策定されているか(回答 8名)



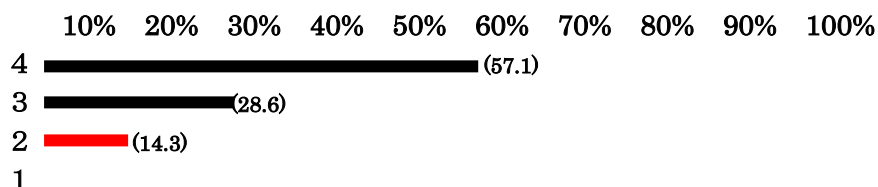
③運営組織や意思決定機能が明確化・明文化されているか(回答 8名)



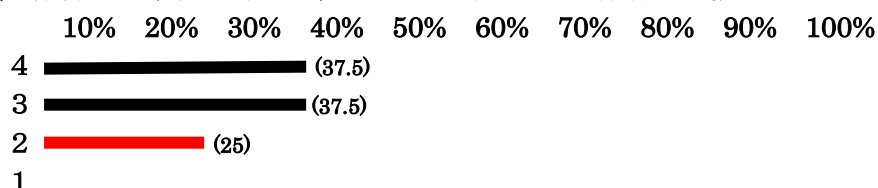
④校務分掌組織が整備され有効に機能しているか(回答 8名)



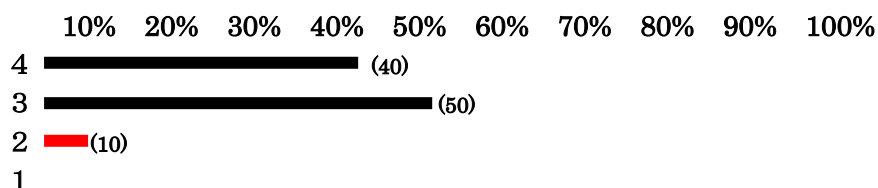
⑤就業規則が整備され人事・サービス・勤務・給与等が適正に実施されているか(回答 7名)



⑥食産業界や地域社会等の変化や要望に対応できる体制が整備されているか(回答 8名)



⑦職員会議の意見・要望や討議内容が運営に活かされているか(回答 10名)

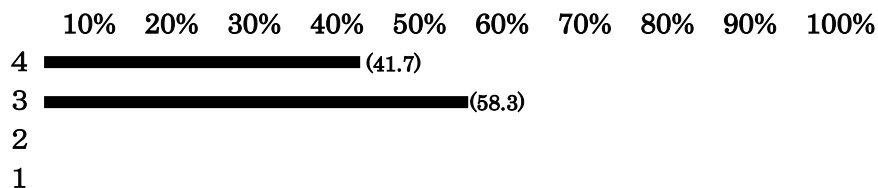


☆分析【課題と改善策】

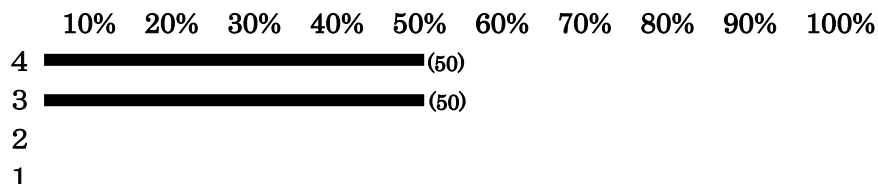
- ア) 組織整備や校務分掌業務の更なる細分化を検討し、役割と責任体制を明確化する。
- イ) 職員会議の内容がルーティーン化にならないよう、議題を職員から提出・提案してもらうシステムを構築し活性化を図る。
- ウ) 理事会・評議員会の意見・要望並びに関連産業や同種専門学校の運営を学びながら、本学の規模・経営状況を踏まえ改革を進めてきた。しかし近年の少子高齢化の急激な社会環境の変化並びに政治の動向が変遷しており、その流れを見据え理解を深めながら全職員が意欲を持って職務に専念できる経営・運営環境を構築していく必要がある。

(3) 教育活動

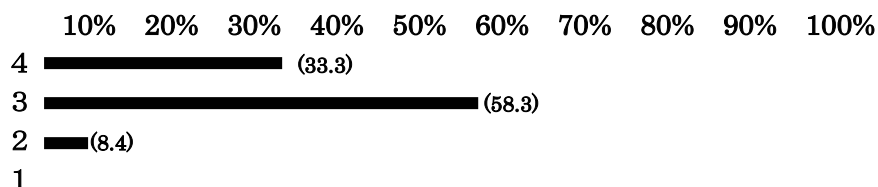
①教育理念・目標に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか(回答12名)



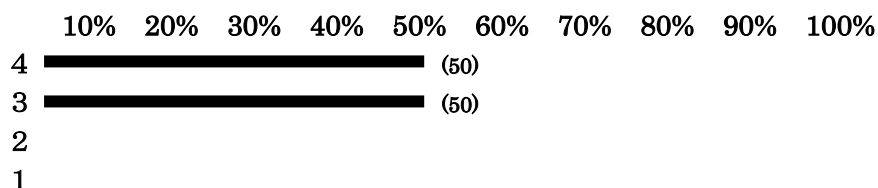
②教育方針並びに修業年限に対応したシラバスにより教育到達レベルや学習時間の確保が明確に示されているか(回答10名)



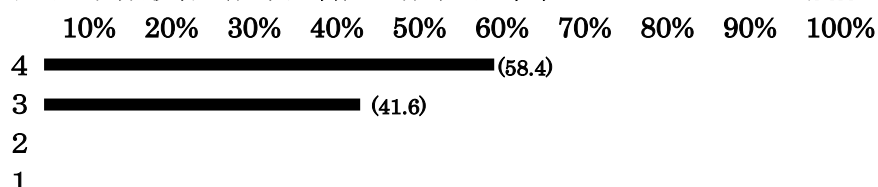
③各教育内容のシラバスが生徒に示され「わかる授業」を目指した工夫・開発が行われているか。(回答12名)



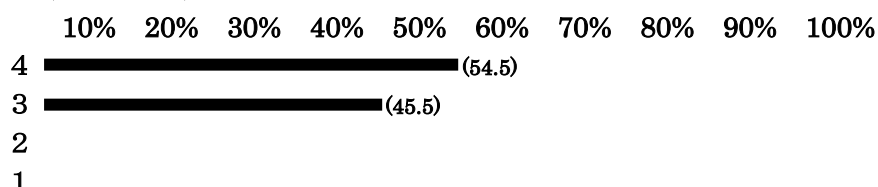
④教育内容に関連する分野の企業・団体並びに関連施設等との連携が図られたカリキュラムの作成・見直し等が行われているか。(回答10名)



⑤実践的な職業教育(職場実習)が体系的に位置づけられているか(回答12名)



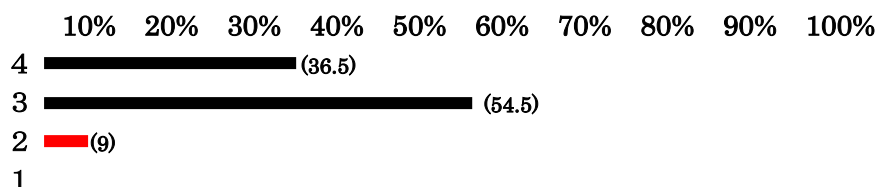
⑥資格取得等に関する指導体制が確立されカリキュラムに体系的学びとして位置づけられているか(回答11名)



⑦成績評価・単位認定・卒業判定の基準は明確になっているか(回答11名)



⑧教職員の資質向上に向けた研修に取り組んでいるか(回答11名)



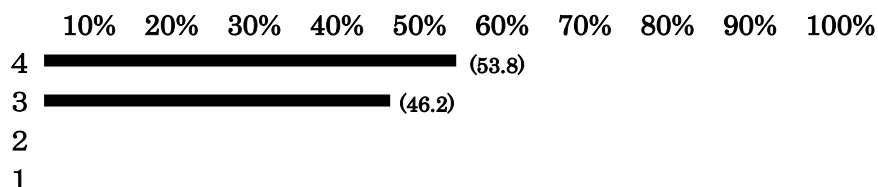
☆分析【課題と改善策】

ア) 各教育内容の関連性や進捗を見据えながら、シラバスの改善を進め学生の理解度や興味を引き出す教育課程の編成に大きな成果があると評価できる。しかし、学生に示す学習のポイントや評価基準の更なる明瞭化を図るため、文章表現や写真表示を更に工夫・研究していく必要がある。

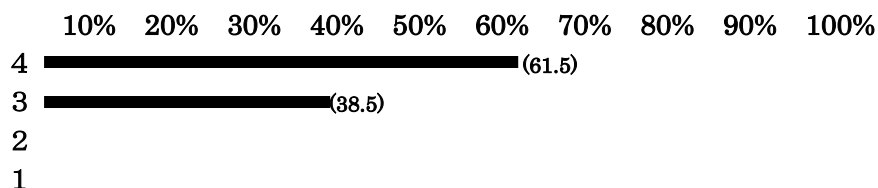
イ) 学生の技術習得プロセスを確立するため、実践的な研修に取り組む実習指導担当者研修会を定例化し、能力開発や資質向上を更に図る必要がある。

(4) 学修成果

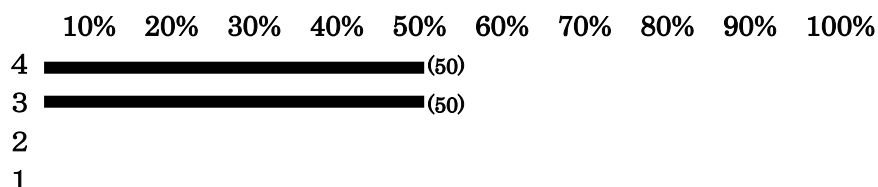
①100%に近い就職率達成が図られているか(回答13名)



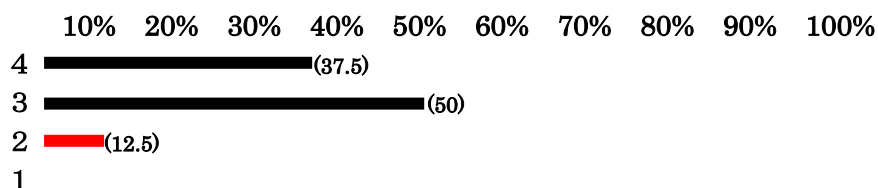
②100%に近い資格取得率の向上が図られているか(回答13名)



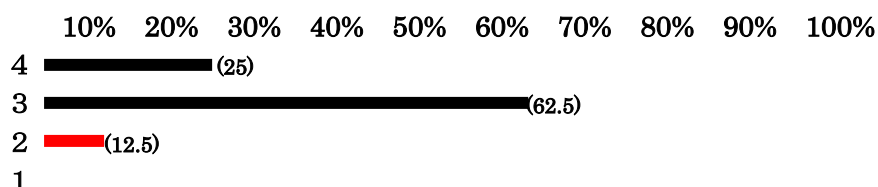
③退学や休学の低減が図られているか(回答10名)



④卒業生や在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか(回答8名)



⑤卒業生の職場での評価・反省を把握し学校の教育活動の改善等に活用されているか(回答8名)



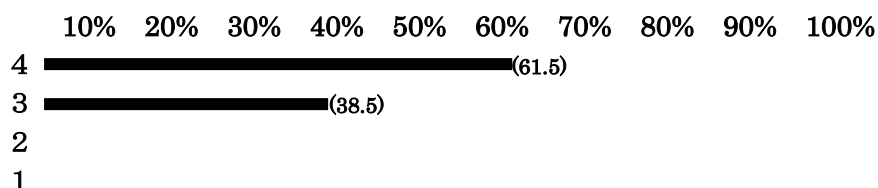
☆分析【課題と改善策】

ア) 学修成果については、早期の個人面談の実践が学生理解と把握に繋がっており、それが就職活動や資格取得への意欲を喚起していると捉えられ学修成果目標を達成している。しかし、地元就職に関しては正社員としての就職は7~8割程度となっている現状を踏まえ、県内全域や県外就職にも意欲を持って取り組める進路指導を推進していく必要がある。

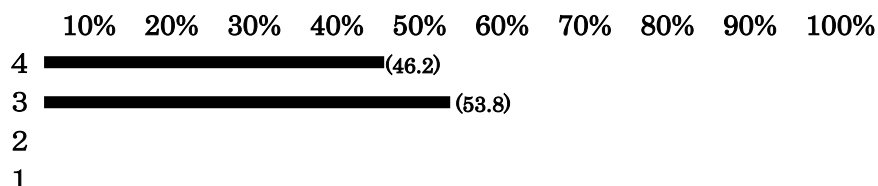
イ) 早期の離職や転職を減らすために卒業後の近況報告や「学校だより」送付を企画する。

(5) 学 生 支 援

①進路・就職に関する支援体制は整備されているか(回答13名)



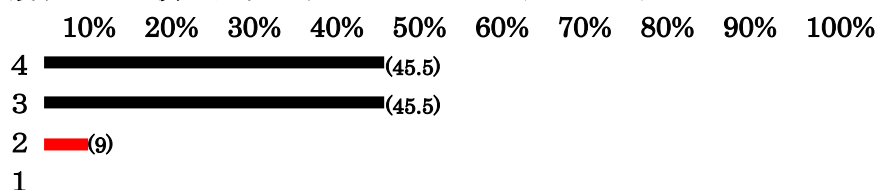
②学生相談・面談に関する体制は整備されているか(回答8名)



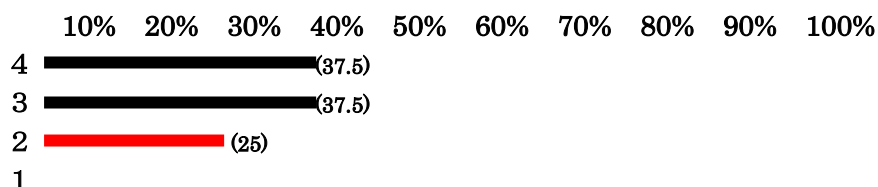
③学生の健康管理を担う組織体制や設備が整えられているか(回答8名)



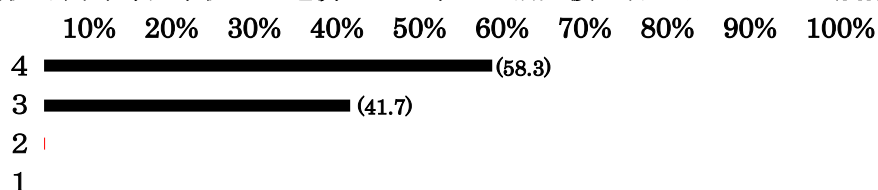
④保護者との連携は適切に行われているか(回答11名)



⑤卒業生に対する進路や生活相談活動等の支援は行われているか(回答8名)



⑥高校や高等専修学校との連携による学生生活支援が行われているか(回答12名)



☆分 析【課題と改善策】

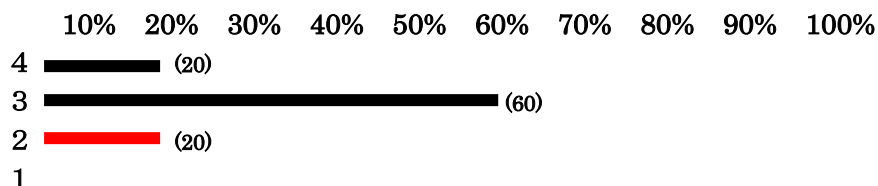
ア) 学生支援の根本である学生理解を深める健康観察・早期面談と共通理解・進路希望調査・高校教員との情報交換会・奨学金受給指導等、積極的な取組んでおり支援体制は確立されているが、放課後の学生の自主学修・研修に対する計画的な支援策を更に構築する。

イ) 地元企業からの求人が10月下旬以降に集中するため、学生の就職意識に不安感が見られる。学校側としても地元企業に対する早期の求人依頼をお願いするとともに新規開拓を推進する。

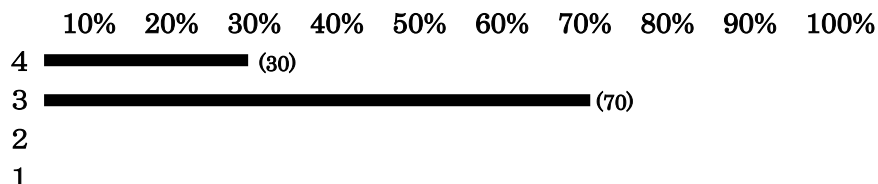
ウ) 「学生相談室」の活用の活性化を図り、卒業生との連絡や相談指導の計画的な支援策を構築していく必要がある。

(6) 教育環境

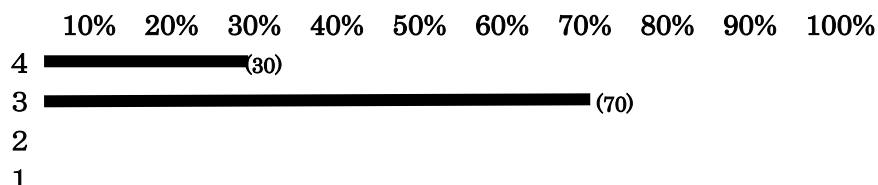
①施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか (回答10名)



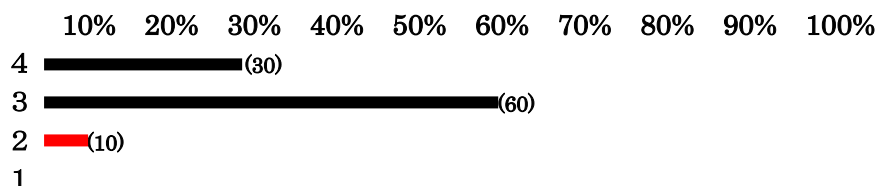
②学内外での理論学習や実習について十分な教育体制が整備されているか (回答10名)



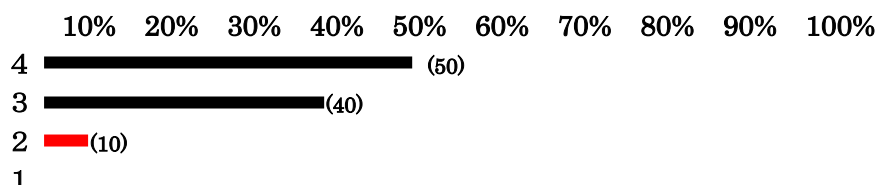
③防災に対する避難体制は整備されているか (回答10名)



④校舎内外の安全点検や衛生点検等の環境整備がなされているか (回答10名)



⑤5S運動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)が十分に展開されているか (回答10名)



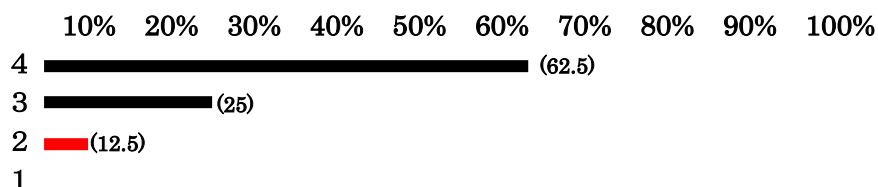
☆分析【課題と改善策】

ア) 教職員の提言(実習担当者研修会議)を受け、不備な環境や施設・設備改善を年次計画策定により実行していく。並びに毎月の安全点検や衛生点検だけでなく、日頃の5S運動の啓蒙と実践を積極的に推進し校舎内外の美化に取り組む。(併設幼稚園の新園舎建設にかかわり難しい面もある)

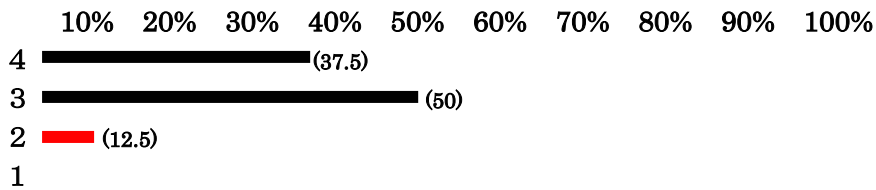
イ) 校内外での学習行事や実習実践活動において、学生の学びの意欲醸成や理論や技術の資質向上に大きな役割と成果を示している。更に効果的・効率的な教育環境を構築し発展させていく教職員の姿勢が必要である。

(7) 学生の受け入れ募集

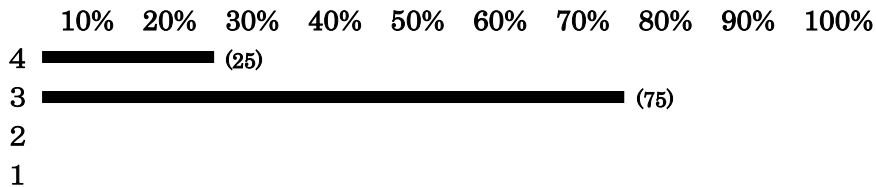
①学生の募集活動は適正に行われているか (回答8名)



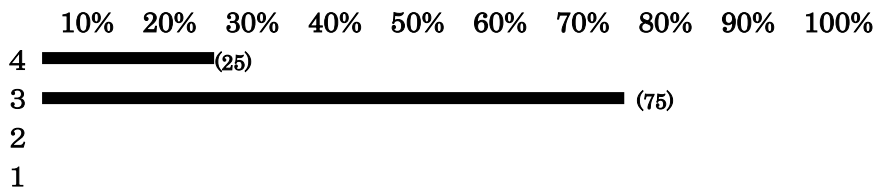
②募集活動において 教育成果は正確に伝えられているか (回答8名)



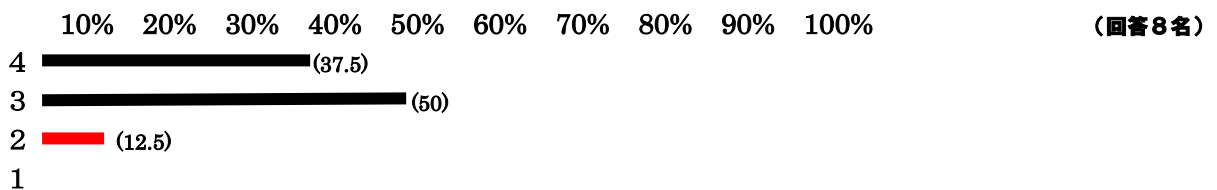
③学納金は妥当なものとなっているか (回答8名)



④入学生選抜試験体制並びに内容は適切に実施されているか (回答8名)



⑤出身高校との連携や本人との面談により調理師資格取得の意欲を当初から十分に把握されているか (回答8名)



☆分 析【課題と改善策】

ア) 学生募集活動は教職員全体の業務として、昨今の少子高齢化や地方の人口減少に危機感を持ちながら、置賜地域のみならず村山地区や福島県北部地域の高校生・社会人を対象に募集企画のアイデアと行動策を構築し実践に移している。

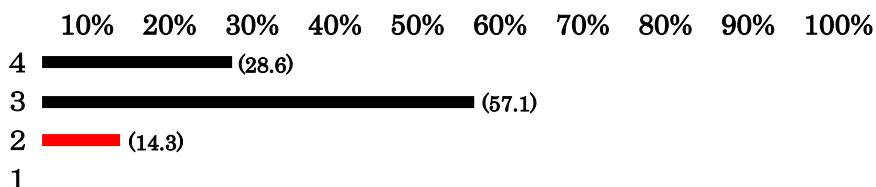
イ) 高等学校進路指導部に対する学校説明会がマンネリ化しており、平成28年度から学生との交流や試食会を通じた本学の学習環境や実習状況の理解と、本学教職員との情報交換会を通じた指導体制を理解いただくイベントを企画している。

ウ) 中学校への出前講座(実習を含めた)を実践し、早い段階からの進路意識醸成を促し調理の世界に興味を持てるようなイベントに育てていく。

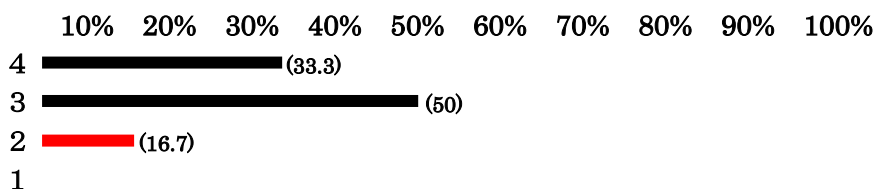
エ) 「一日体験入学」(オープンスクール年4日)を核とし、学校訪問活動やホームページ及び電子掲示板広報を積極的に展開させ、更にバージョンアップした質の高い内容にし関係機関・団体に大きくアピールする手立てを工夫する必要がある。

(8) 財 務

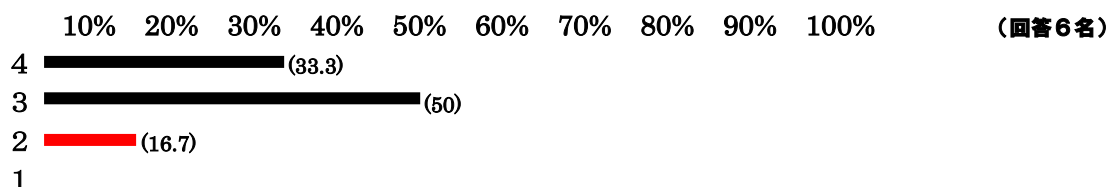
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか (回答7名)



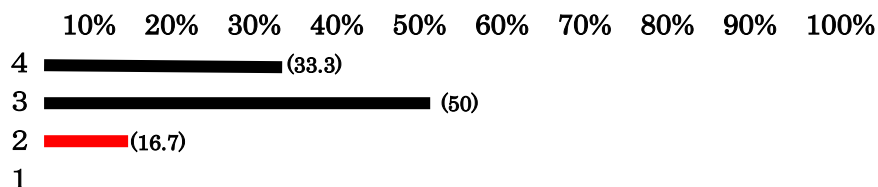
②予算・収支計画書は有効かつ妥当なものになっているか (回答6名)



③本学園の理事会・評議員会や「経営運営会議」の経営・運営に関する協議は適切に行われているか



④財務状況や将来構想に関する情報公開の体制整備はできているか (回答6名)



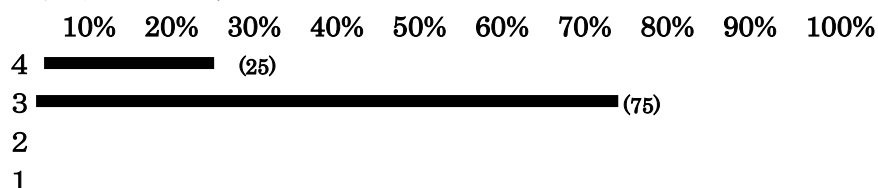
☆分析【課題と改善策】

ア) 財務状況の報告を職員会議時に実施したが、併設する幼稚園の新園舎建設経費支出にかかわり今後の学校運営資金状況の見通しが明確にされない中なので職員の不安が窺える。理事会や評議員会及び新園舎建設委員会で審議された財務状況や内容について随時説明する必要がある。

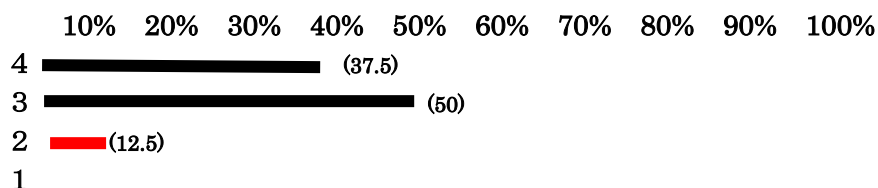
イ) 学校法人会計「収支計算書」では理解しがたい部分もあるため、学校運営独自の収支計算書を作成し、各種行事や実習会計を明確化していく。

(9) 法令等の遵守

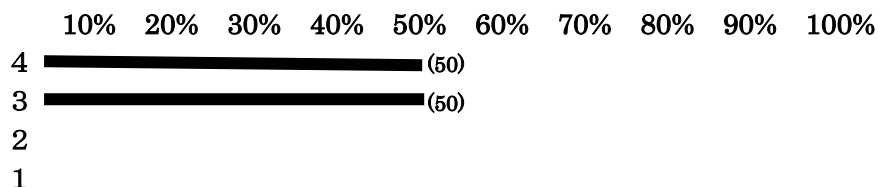
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適切な運営がなされているか (回答 8名)



②個人情報に関しその保護のための対策がとられているか (回答 8名)



③教職員自己評価と管理者の教職員評価を明確にした業務発展に取り組んでいるか (回答 8名)



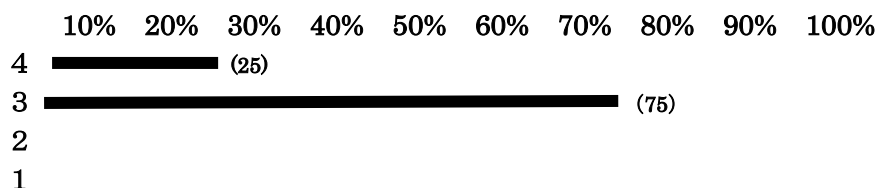
☆分析【課題と改善策】

ア) 個人情報については、HPや学校案内等への写真掲載承諾の許可を得る手立てを入学時に行う。

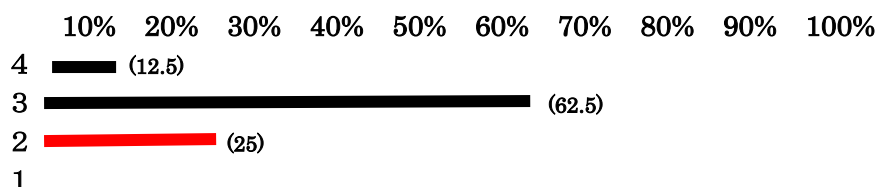
イ) 教職員の自己評価の取組みを發展させ、管理者との意思疎通を密にした学校運営理解を深めた運営資質向上を図っていく。

(10) 社会貢献・地域貢献

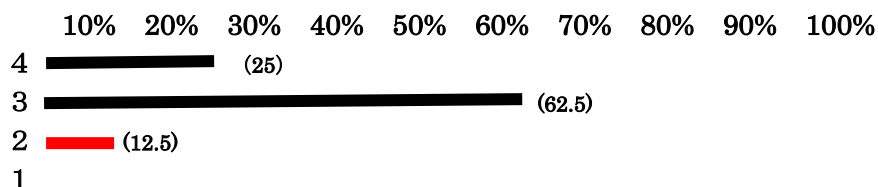
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか (回答 8名)



② 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか (回答 9名)



③ 地域に対する公開講座の受託等を実施している (回答 9名)



☆分析【課題と改善策】

- ア) 学生・職員の社会的貢献場面をもっと多く企画し、現実感・充実感・向上心を育んでいきたいが、一年間という学びの中での学生の活動には時間的余裕が無く、現在取り組んでいる「食育教室」や「卸売り団地祭り創作鍋出品」のイベント参加による貢献で精一杯であると考えている。しかし、長期休暇期間を活用した職員の貢献活動は可能であるが、慎重な検討を要する。
- イ) 地域の中学校を訪問する「出前講座」を企画・実践し、中学生の将来の自分探しの夢を育てる取組みを推進していく。
- ウ) 地域の方々との関わりを持つ機会としては、コミュニティーセンター料理教室・社会人対象の料理教室・地域行事への参加・学校行事への招待など広く考えられるが、本学でのカリキュラムとどのように係わらせ単位として認められるか検討していく。